

日本人のレジャーの捉え方に関する研究の試み

その2、中年夫婦、若年サラリーマン、大学生を対象として

○知念嘉史（東海大学）、西野 仁（東海大学）、吉川麻里子（スコークラブ）

I、はじめに

本研究は、日本人のレジャーの捉え方に関する調査研究を試みた3編の関連する研究の第2報であり、とくに、ESMを使って収集した行為者の主観によるデータを、集計・分析した結果が、矛盾なく解釈できるかどうかを検討することを目的とする。

II、研究の方法

本研究の目的を達成するために、調査に協力することを承諾した54名を対象に、ESM調査を実施し、収集した日常生活経験の中から、「レジャー経験」と「レジャーではない経験」を抽出し、集計分析した。なお、54名の抽出は無作為抽出ではない。理由は、ESMがはたして日本人に一般的に受け入れられるかどうか疑念があったからである。

1) 調査方法

Experience Sampling Method により、時々刻々変化する「日常経験」の流れの中から「経験の標本」をランダムに抽出した。

2) 調査票と調査内容

本調査では、西野が Larson らの開発した Experience Sampling Form を Larson の助言のもとに日本人向けに改良した調査票を用いた。内容は、ポケベルの呼出し受信時の活動の種類、場所、同伴者、気分の他に、その場面に対する態度や意識、つまりその経験は日常的か、それへの取り組みは真剣か、それは自分のためか、それは重要ななどについての質問が含まれている。活動の種類、場所、同伴者については自由記述を、気分とその場面に対する態度や意識については7段階のリッカートタイプの尺度を用いた。

3) 調査の実施

調査時期：1993年10月～12月

調査対象A：中年夫婦（38才～50才）男女22名（男11名、女11名）

B：若年サラリーマン（23才～27才）16名（男9名、女7名）

C：大学生（18才～23才）16名（男9名、女7名）

計：54名（男29名、女25名）

ポケットベルの呼びだし：7：30 am～10：30 pmの間にランダムな時刻に7回4日間（金曜日～月曜日まで）

回答数：総回答数：1910（79、3%）

ポケットベルの呼びだし後2時間以内に回答した数：1766（73、3%）

III、結果

1) レジャー経験と非レジャー経験

行為者がそれぞれの経験をどの程度レジャーとして捉えているかについては、「その活動をどの程度レジャーだと思うか？ それともレジャーとは別のものだと思うか？」という7段階の質問項目によった。「レジャーだと思う」に対して「まさにそのとおり」と「そのとおり」のどちらかに回答した経験をレジャー経験とし、「レジャー経験だとは思わない」に対して「まさにそのとおり」と「そのとおり」のどちらかに回答した経験を非

レジャー経験とした。結果は、レジャー経験が総日常経験の10.0%、非レジャー経験は49.2%だった。

2) レジャー経験と非レジャー経験の内容

(1) 活動の種類：主としてレジャー経験だと認識されている活動は、社交的活動、テレビやラジオの視聴、外出、スポーツ、読書、休息や気晴らしの活動であった。しかし、これらの活動も、非レジャーだと捉えられている場合もあった。主として非レジャー経験として捉えられている活動は仕事、学業、パートタイムジョブ、移動、食事、自分の身の回りの用事などであったが、それらの中には、時として、レジャーとして捉えられている活動があった。

(2) 場所：半数以上のレジャー経験は、レストランやレクリエーション施設や自然の中で行われている。約4%のレジャー経験は、職場でなされていた。

(3) 同伴者：家族、友人、ボーイ/ガールフレンドなどと一緒にいる時は、レジャー経験だという回答が非レジャー経験だという回答を上回った。逆に一人である時は、非レジャー経験がレジャー経験を上回った。

(4) ムード：表1は、レジャー経験と非レジャー経験におけるムードスコアの平均である。全ての項目において、有為な差が認められた。特にレジャー経験でスコアが高かった項目は、自由、安定、リラックス、幸せ、やすらぎであった。

表1 レジャー経験と非レジャー経験におけるのムードの平均と標準偏差

項 目	レジャー		非レジャー		項 目	レジャー		非レジャー	
	7←-----→1	MEAN S.D.	MEAN S.D.	MEAN S.D.		7←-----→1	MEAN S.D.	MEAN S.D.	
安定・いろいろ	5.76	1.23	4.81	1.39	リラックス・・・緊張	5.68	1.74	4.55	1.54
わくわく・退屈	5.13	1.31	4.08	0.90	満足・・・不満足	5.55	1.27	4.33	1.18
幸せ・・・不幸せ	5.65	1.23	4.25	1.06	やすらぎ・・・不安	5.62	1.26	4.28	1.11
嬉しい・・・嫌な	5.47	1.28	4.10	1.05	ひま・・・忙しい	4.43	1.41	3.58	1.37
自由・・・束縛	6.08	1.18	4.40	1.54	爽やか・・・重苦しい	5.08	1.50	4.06	1.16

(5) 経験場面に対する態度や意識について：非日常的で、自己選択した、義務的でない、好きな、重要ではない活動をレジャー経験として捉えている傾向が認められた。

3) レジャー経験と非レジャー経験の判別

SASプログラムを使って、レジャー経験と非レジャー経験の判別を試みた。ムード項目の第一主成分（ムード水準）と、自己選択度（その活動を自分で選んだか、他の人に指示されたのか）、欲求度（その活動をどの程度やりたいのか）、自由度（その活動はやらねばならないのか、やってもやらなくても良い活動か）、自己目的度（その活動は自分のためにやるのか、他人のためなのか）の項目を用いたところレジャー経験については84.18%を、非レジャー経験については、77.30%が正しく判別された。

IV、考察

これらの結果は、われわれの経験則に照らして十分に理解し得るものであり、また、ESMを用いた研究方法がおおむね適していることを示唆していると考えられる。